

## 織田 裕行 氏の学位審査結果の要旨

主査：福永 幹彦

副査：中村 加枝、日下 博文

1999 年より性別違和の患者の治療に携わり。受診患者のうち女性から男性への性別違和の診断の確定した 155 名の患者さんにつき、多面的人格検査 MMPI 及び性ホルモン値を測定し、受診までにホルモン療法を受けておられた患者（53 名）と受けておられない患者（102 名）で、それぞれを比較。結果、治療群で Testosterone 値が優位に高く、Estradiol 値は優位に低下しておりホルモン療法の効果は認められた。しかし MMPI では全ての尺度に差が見られず、治療の有無では personality に差が認められなかった。

さらに、受診までに無治療であったが、診断後ホルモン療法と精神療法の併用療法を実施した 14 名につき、治療前後での MMPI 値を比較したところ、性尺度である Mf を除くすべての尺度で改善が見られた。治療前後の検討では、性尺度を除く全てで改善しており、精神療法併用のホルモン治療が精神状態を改善させることが示された。一方、横断的検討ではホルモン治療の有無による差が認められなかったが、受診まで治療を受けずに生活できた群と治療欲求が強く受診時すでに治療を受けていた群では、もともと人格的な差があり、治療により差がなくなったと考えられた。これらの結果は、性別違和の患者へのホルモン療法や併用精神療法が、患者の精神面を改善することを示しており、治療選択に際して、大きな判断材料を提供するものと考えられる。